

No.78 A WORD FROM ANOTHER WORLD



March 10 – Harriet Tubman Day Jane Kim

When I think of the month of March, I mostly think about the end of winter and the coming of spring. However, I would like to introduce to you today a woman who became an icon of American courage and freedom.

Harriet Tubman (born 1822 – March 10, 1913) was an American abolitionist, which means someone who advocated for an end to slavery before the Civil War. Harriet Tubman was born a slave, but later in life escaped from slavery and worked in secret to help many other slaves, including her family, to freedom. During the American Civil War, she also worked for the United States Army, first as a cook and nurse, and then as an armed scout and spy. She was the first woman to lead an armed expedition that freed more than 700 slaves. After the war, she continued to help people, particularly women, by supporting women's right to vote until she fell ill.

In life, Harriet Tubman was well known and well respected as she inspired many people, especially African Americans who were struggling for equality and civil rights. After her death, people honored her by naming schools after her, creating monuments, making statues, and being the first African American woman printed on a US Postage stamp.

Harriet Tubman inspires me to live life without taking things for granted, and I am glad to share a little of her story with you. Thank you for reading!

【ちよつと豆知識】宮地晶子

born a slave「奴隷として生まれ」という表現が出ました a born leader「生まれながらのリーダー」、a born loser「生まれつき負け犬」、born rich「裕福な生まれ」。「生まれながらに〜」って、どうなんでしょう。それよりbornで格好いいのは、クイーンの名曲I was born to love you.「あなたを愛するために生まれた」です。

3月10日 ハリエット・タブマン デー ジェーン・キム

3月といえば、たいてい冬の終わりだとか春の初めだとかと考えるものですが、今回は、アメリカの勇気と自由の象徴となった女性をご紹介します。

ハリエット・タブマン(1822年 - 1913年 3月10日)は、アメリカの奴隷制度廃止派。アメリカ南北戦争の前に奴隷制度の廃止を唱えた人です。奴隷として生まれ、のちに脱走し、家族を含む多くの奴隷を密かに助ける活動を行いました。南北戦争中は、軍で調理人や看護師として働き、のちに武装して斥候や偵察も務めました。また女性として初めて武装軍を率い、700人以上の奴隷を解放しました。戦後も病いに倒れるまで人助けをし、女性の投票権を支持する

など、特に女性の支援を続けました。

生前はたくさんの人、とりわけ平等や公民権を求めて闘うアフリカ系アメリカ人に影響を与えるなど、よく知られ敬われていました。没後、敬意を表してタブマンの名を冠する学校も多く、モニュメントや像が造られました。またアフリカ系アメリカ人女性として初めて国の郵便切手に印刷されました。

タブマンは、何事も当たり前と生きていくことのないように、と私を奮い立たせてくれます。今回、彼女の話みなさんと共有できてうれしく思います。読んでくださってありがとうございます。

(訳:宮地晶子)

英語教育指導員 宮地晶子の

エイゴノマナビカタ

第148回

地球人になるために

日本のロックバンド「FUNKIST」が来町してボーカルの染谷西郷さんが中学校の道徳の授業で話をしてくれました。タイトルは「差別や偏見のない社会の実現」。

染谷さんは南アフリカ(以下南ア)で生まれました。当時はアパルト・ヘイト(人種隔離政策)の真っただ中。安い労働力を確保するために黒人が差別され、そればかりかイギリス人とオランダ人同士が争い、その他の人種もお互いに差別し合い、誰もが誰かを虐げて生きていました。27年間投獄されていたネルソン・マンデラ氏が

後年大統領になるまで、その状況は変わらなかったのです。

染谷さんのお父さん(日本人ギタリスト)とお母さん(英国系南ア人バレリーナ)は、隣国モザンビークで恋に落ちました。彼の生い立ちと何層にも入り組んだ差別の話に心が震えました。

二人は南アに戻って結婚し、染谷さんが生まれましたが、当時異人種間の結婚は違法でした。日本人をかくまったことで、お母さんの両親は職を奪われてしまいました。

そして染谷さん一家は国外退去に。でも日本の土を踏んだ染谷さんを待っていたのは、「ガイジン」という言葉と激しいいじめでした。

「自分は日本人だと証明したくて、いつもパスポートを持っていた」という話は悲しい。音楽と出会い、人と分かれ合えるまで、彼はずっと「生きている意味って何だろう?」「死んでしまいたい」と思っていたのです。

中学生の質問や意見の一言ひとことをしっかり受け止めて的確に応答する彼の姿勢に感動し、そのメッセージが伝わる歌声に魂を揺さぶられました。奇しくもジェーンさんのコラムも差別の話です。